

## 世界的な緩和圧力の中、欧州も金利引き下げへ~ECB理事会

2020年3月9日(月)

3日に米FRBは臨時のFOMCを開催し、政策金利であるFF金利先物誘導目標を0.50%引き下げ、1.00-1.25%としました。FRBが定例会合以外で利下げに踏み切るのはリーマンショック直後の2018年10月以来となります。

今月17日18日に定例会合を控えていましたが、3月2日からの週での米ダウ平均株価の下げ幅が3583ドルに及ぶなど、新型コロナウイルスへの懸念で市場が大きな不安を抱える中で、定例会合を待てないという判断の下、通常の0.25%ではなく0.50%の大幅利下げに踏み切った格好です。

4日のカナダ中銀政策理事会では、米国の動きを受けて事前予想の0.25%ではなく、0.50%の大幅利下げに踏み切るなど、各国で積極的な緩和ムードが広がっています。

そうした中、12日にECB理事会が開かれます。イタリアで新型コロナウイルスの感染拡大被害が急速に強まり、フランスやドイツなどでも感染者が増える中で、ECBも緩和圧力を強く受けています。

今のところの予想では、主要政策金利であるリファイナンスオペ金利と限界貸出ファシリティ金利はそれぞれ現行の0.00%と+0.25%で維持する見込みですが、下限金利となる預金ファシリティ金利については、現行の-0.50%から-0.60%への引き下げが見込まれています。

同金利は昨年9月の理事会で-0.4%から-0.5%に引き下げられ(この時も主要リファイナンス金利と限界貸出金利は据え置きでした)、この時の理事会で同時に、2018年末で終了したQE(資産購入プログラム・APP)について月額200億ユーロの規模で11月1日より再開されました。

またTLTRO(貸出条件付き長期リファイナンスオペレーション)第3弾について、調達金利を0.1%引き下げ、主要リファイナンスオペ金利+0.1%から、主要リファイナンスオペ金利と同水準に。貸し出しが増加した金融機関に対する優遇金利も従来の預金ファシリティ金利と同水準の-0.4%から、引き下げられた後の預金ファシリティ金利である-0.5%に引き下げられました。また、資金供給期間について従来の二年から三年に伸ばしました。

このように日本同様にマイナス金利の導入、量的緩和に実施などの積極的な緩和策をすでにとってきているだけに変更としてはやや物足りない感もあり、市場がその部分をどのように評価してくるのか。

一部ではTLTROの拡充なども見込まれていますが、預金ファシリティ金利を引き下げる際に、TLTROでの優遇金利をそれに合わせて引き下げることはともかく、それ以外のことはやややりにくそう。

フランス中銀のビルロワドガロー総裁は、現行のTLTROの枠内で新型コロナウイルスによって問題が生じている一部企業への資金の貸し出しが可能という見通しを示しており、打つ手はあまりなさそうに見えます。

ラガルドECB総裁は2日に新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に関して、景気下支えの為に適切で的確な絞った対策を行うと、同日の黒田日銀総裁、カーニー英中銀総裁と同様に積極的に経済を支える姿勢を示しました。

ラガルド総裁にとって初となる利下げ(昨年9月時点ではまだドラギ総裁)に踏み切るのか、また、量的緩和の拡大などその他の措置が取られるのか。中途半端な姿勢を示すとユーロドルでのユーロ高ドル安が進む可能性があるだけに注意深く結果をみていきたいところです。

なお、ECB内では新型コロナウイルス対応での金融政策での対応には限界があるとの姿勢も強いようです。デギンドスECB副総裁は2日に同問題での対応は財政政策が第一であるべきと発言しました。

フランスの財務相、IMF専務理事と歴任したラガルド総裁だけに、政治力を発揮して財政面でのプレッシャーをかけ、財政との協調を示してくるなどの方策もありそうです。

その他、25日に予定されているNZ中銀金融政策会合、26日に予定されている英中銀金融政策会合(MPC)を待たず、両国の利下げが来週急遽行われる可能性があります。

特に英中銀はかなりの利下げ圧力を受けており、緊急利下げに対する市場の期待感も強いだけに要注意です。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド」では責任を一切負いかねます。「株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドに帰属し、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド